

目 次

- (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況・・・・・・・・・・ 1
- (2) 人材需要の動向等社会の要請・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

情報データ科学部の学生定員の設定にあたっては、学内における学生定員の再配分により、大学全体の学生定員を増減させないことを前提とし、工学部情報工学コース50名^{※1}のほか、教育学部の学生定員見直しによる60名を加え、110名としている。

なお、本学工学部は1学科（6コース）のため、コースごとの入学者数は公表されていないが、学部全体の志願倍率は2.8倍であり、情報工学コースも受入上限の目安である50名を充足している。

学生定員110名の確保見通しについては、第三者機関に依頼して実施した、主に本学部を受験するターゲットとして想定される九州北部（長崎県、佐賀県、福岡県、熊本県及び大分県）に所在する高校の高校2年生を対象とするニーズ調査の結果において、「情報データ科学部を受験し、入学し、かつインフォメーションサイエンスコースまたはデータサイエンスコースで学びたい」と答えた者は全回答者のうち17%（559名）で入学定員の約5.1倍であったことから、110名の入学定員を十分に確保できると考えている。

また、情報系学部における全国的な状況としては、類似学部として平成30年4月開設の広島大学情報科学部、平成29年4月開設の滋賀大学データサイエンス学部及び名古屋大学情報学部があり、平成30年度一般入試（前期、後期試験）の志願倍率は広島大学3.6倍、滋賀大学4.2倍、名古屋大学3.5倍で、いずれも3倍を超えるニーズがあり、全国的にも需要があることが伺える。

併せて、本学部の所在する長崎県には、平成28年4月開設の長崎県立大学情報システム学部、本学部の教育内容と類似する情報システム学科^{※2}があり、同学科の志願倍率も7.9倍（入学定員28名、志願者数222名）と高いことから、地域にも高いニーズがあると考えられる。

学生定員110名の教育体制については、情報データ科学部は情報データ科学科の1学科で、インフォメーションサイエンスコースとデータサイエンスコースの2コースを設置するため、原則としてコースごとの学生定員の設定は行わないが、学生には、2年次に所属コースを選択させ、インフォメーションサイエンスコースを担当する教員13名（教授6名、准教授3名、助教4名）で情報技術実践系科目をベースとした情報セキュリティ系及び応用系科目（IoT、SE分野）を、データサイエンスコースを担当する教員13名（教授5名、准教授6名、助教2名）で統計学系科目をベースとしたAI系科目及び応用系科目（医療・生命、社会・観光分野）を教授することとなるため、各コースの学生数は、概ね入学定員の半数が目安となる。これらをS/T比で見た場合、学部全体のS/T比は完成年度で17.6、卒業研究を担当する准教授以上の教員は19名であるためS/Tは5.8で、工学部情報工学コース^{※3}と同程度であり、教育の質保証の観点から見ても、学生定員110名は適正である。

【資料1-1 平成28年度～平成30年度 長崎大学地区別入学者内訳】

【資料1-2 類似学部等における平成30年度一般入試（前期・後期）志願状況】

- ※1 工学部工学科は1学科6コース制であるため、コースごとの学生定員は設定されておらず、教員数及びこれまでの志願者のコース希望動向等を踏まえて、コースごとの受入上限の目安を設けている。
- ※2 長崎県立大学情報システム学部には、情報システム学科と情報セキュリティ学科の2学科があるが、情報セキュリティ学科は情報セキュリティ教育に特化した学科で、本学部の教育内容とは異なるため、比較対象としていない。
- ※3 工学部情報工学コースでは学生数50名に対し、教員数12名（教授4名、准教授5名、助教3）で教育を行っているため、コースのS/T比は16.6、卒業研究におけるS/T比は5.5となる。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

平成30年11月に第三者機関（株式会社 進研アド）に依頼し、本学の主な学生募集エリアである長崎県、佐賀県、福岡県、熊本県及び大分県に所在する高校の高校2年生に対して調査を実施し、3,281名から回答を得た。回答者の属性概要は、在籍高校の所在地は本学所在地である「長崎県」が48.6%を占め、次に「福岡県」が24.9%と続く。所属クラスは、本学部が理数系基礎学力を重視する学部であり、理系クラス所属者に優先して調査実施を依頼したため、「理系クラス（理系コース）」が83.8%を占めた。また、高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国公立大学に進学」が92.3%で最も多く、次いで「私立大学に進学」が20.1%であった。回答者の属性及び高校卒業後の希望進路から、本学部がターゲットとする対象に調査を実施できていると考えられる。

回答者全体における入学意向は、「受験したい」が19.6%（643名）で、そのうち「入学したい」は受験したいと答えた者の92.1%（592名）で受験意向と入学意向に大きな差を生じていない。また、入学したいと答えた者592名のうち、「インフォメーションサイエンスコースで学びたい」が48.1%（285名）、「データサイエンスコースで学びたい」が46.3%（274名）で、受験したい、かつ入学したいと答えた者の94.4%（559名）で、入学定員の約5.1倍であることから、志願倍率と受験倍率が大きく乖離することはないと考えられる。

なお、ここで注目すべきは、定員充足の見込みが確認できたことに加え、「受験したい」かつ「入学したい」と答えた者の約95%が「学びたいコースを」明確にしている点で、この結果は、国立大学の情報系新学部として単に興味を示しているだけではなく、「本学部で何を学び、何を身につけるかをきちんと理解している」ということであり、このことから、確保の見通しとして信頼できる数値であり、本学部の教育内容は高校生のニーズを的確に捉えているとも言える。

さらに、本学部に入学者の可能性がより高いと考えられる「国公立大学に進学」を考えている回答者3,027名のうち、受験かつ入学意向があると回答した者は17.9%（542名）であり、更にターゲットを綿密に限定する観点から、本学部の学問分野と関連する「情報工学・情報科学・データサイエンス」に興味があると答えた者750名でみると、「受験し入学したい」と答えた者のうち「データサイエンスコース希望」が20.0%（150名）、「インフォメーションサイエンスコース希望」が28.8%（216名）の合計48.8%（366名）あり、他の学問分野関心層と比べ割合が高かった。興味のある学問分野に絞って比較検討を行った場合でも、入学定員の3.3倍を上回る入学意向者があることから、長期的かつ安定的に学生が確保できると考えられる。

【資料2 長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」（仮称）設置に関するニーズ調査 高校生対象 調査結果】

ウ 学生納付金の設定の考え方

本学の初年度納付金は、817,800 円（授業料年額 535,800 円、入学金 282,000 円）で、近隣の国立大学法人と同額である。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

情報データ科学部の学生を確保するために、以前より活動している広報ワーキンググループを中心に新学部専任教員で協力し、主に以下の取組を行う。

（ア）高校訪問

ニーズ調査の際、長崎県内の高等学校数か所に足を運び、直接調査用紙及びリーフレットを手渡し、進路指導教員等に本学部の概要説明を行っている。設置申請後は、調査の際に訪問した高校を含め、長崎県内の多くの高等学校を訪問し説明を行うとともに、県内のみならず、佐賀県、福岡県、大分県、熊本県等の高等学校にも足を運び、学部の広報活動に積極的に取り組む。

（イ）オープンキャンパス

本学で7月に行われるオープンキャンパスにおいて、本学部の理念、入試制度、カリキュラム、及び卒業後の進路などについて説明を行う。なお、最初のオープンキャンパスは開設前年度のため、工学部情報工学コースの研究室を紹介する予定である。

（ウ）ホームページやパンフレット等による広報

情報を自ら探す主体的で優秀な学生を確保するとともに、広く一般に情報公開を行うことを目的とし、ホームページを作成する。具体的には、設置認可申請後の4月を目途に概要程度のホームページを立ち上げ、早い段階から学生の進路選択の参考となる情報を公開するとともに、設置認可後は本格的に情報を公開する。

また、パンフレットについても同様に学部独自のものを作成し、高校訪問、オープンキャンパス等で配布するとともに、本学が発行している広報誌「CHOHO（チョーホー）」に本学部の情報を掲載し、学生のみならず、保護者や地域企業など、より多くの人に知ってもらう機会をつくる。

（2）人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

我が国が超スマート社会（Society5.0）を実現し、これから直面する人口減少、超高齢化社会に柔軟かつ適切に対応していくためには、フィジカル空間（現実空間）から蓄積される膨大なデータをサイバー空間（仮想空間）に適切に集め、組み合わせ、分析し、その結果を実社会にフィードバックしていくことが必要である。情報技術革新に適応した新たな産業や社会の仕組みそのものの創出の必要性などの社会構造の大きな変革を受け、第5期科学技術基本計画、日本再興戦略等の様々な提言・報告書等において、「ITを駆使しクリエイティブな発想で我が国の強みをさらに伸ばすことができる人材育成が急務」と指摘されているが、2020年には約37万人のIT人材、特に「データ・AI人材」の不足は深刻さを増すとされており、このような状況を踏まえ、様々な施策により現役世代に対する学び直しの機会充実による高度専門人材の養成が進められている。

また、今後長期間にわたり時代の変革に適切に対応するためには、次世代を担

う若い人材の養成が必要であり、学習指導要領の改訂により小・中学校における理数教育の充実が図られているところであるが、「日本経済 2016-2017 (平成 29 年 1 月、内閣府)」における『データサイエンティストの定義』に当てはまる人材には「統計学に関する知識」、「ビジネスを理解したうえで問題発見・解決ができる能力」、「分析で得られた知見を他人に伝えるコミュニケーション能力」などが必要とされている。これらの能力の修得には、単一的な専門教育だけではなく、基礎となる数学、物理学、統計学、コンピュータ科学、プログラミング言語から応用科目（社会学、人文学、経済学）など、文系・理系の枠を超えた様々な学問分野にアクセスでき、多様な視点を養うことができる教育環境が必要である。

このような社会的背景・要請を受け、本学では、これまで情報工学教育を担ってきた工学部情報工学コースを核に、数学・統計学などの基礎学問分野や本学の強みを生かした医療・生命分野及び社会・観光分野を中心としたデータサイエンスリソースを加え、情報科学とデータ科学を効果的に組み合わせた、従来にない新たな教育研究組織として「情報データ科学部」を設置する。教育課程では、データサイエンススキルの修得に不可欠な基礎数学や、コンピュータのハードウェア、ソフトウェア及びネットワーク技術の基礎を修得するコンピュータ科学並びにコミュニケーション科目を全学生に修得させ、2 年次にコースを選択させ、情報科学を学び IoT、SE 分野で「作る」を担うインフォメーションサイエンティスト、データ科学を学びビッグデータの活用分野として期待されている医療・生命分野及び社会・観光分野で「創る」を担うデータサイエンティストを養成するとともに、所属コースに関わらず、自身が目指す将来に必要な科目を選択し履修できるカリキュラムを編成し、情報科学とデータ科学双方の学問領域に精通させることで、これまでにない新たな価値を創造しうる人財を養成し、社会的要請・ニーズに応えようとするものである。

② 社会的、地域的な人材需要の動向

平成 30 年 11 月に第三者機関（株式会社 進研アド）に依頼し、新学部の卒業生就職先として想定される、本学工学部卒業生の採用実績がある全国の企業、及び県内の情報系企業 950 社を対象に調査を実施し、412 企業から回答を得た。

はじめに、回答者の属性について人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は 21.8%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人は 66.5%で、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。

また、アンケートでは、本学部で養成する「進化するこれからの社会に必要な、情報・データ科学分野の高度な専門知識をもち、ビジネス・観光・医療や、ロボット開発・システム開発の分野などで活躍できる人財」について魅力を感じると回答した企業が 90.5%、また、本学部の社会的必要性についての評価に「必要だと思う」と回答した企業は 97.8%といずれも極めて高く、ほぼ全ての企業が、これからの社会にとって必要な学部・学科であると評価していることが伺える。

さらに、本学部の卒業生に対する採用意向について、「採用したいと思う」と回答した企業は 79.9% (329 企業)、さらに、「採用したいと思う」と答えた 329 企業に、本学部卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数を明確に回答した企業は 167 企業、採用想定人数の合計は入学定員の 2 倍を上回る 256 名であった。この他、本学部卒業生を「採用したいと思う」が、「採用人数は未確定」と回答した企業が 161 企業あったことから、本学部で養成する人財は社会的要請・ニーズにマッチしており、安定した人材需要がある

といえる。

【資料３ 長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書 企業対象 調査結果】

学生の確保の見通し等を記載した書類 添付資料

資料 1-1	平成 28 年度～平成 30 年度 長崎大学地区別入学者内訳・・・・・・・・・・	1
資料 1-2	類似学部等における平成 30 年度一般入試（前期・後期）志願状況・・・・・・・・	2
資料 2	長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」（仮称）設置に関する ニーズ調査 高校生対象 調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・	3
資料 3	長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」（仮称）設置に関する ニーズ調査結果報告書 企業対象 調査結果・・・・・・・・・・	2 1

平成28年度～平成30年度 長崎大学地区別入学者内訳

地区	県	平成28年度	平成29年度	平成30年度	計	平均	割合
九州 北部	長 崎	571	578	574	1,723	574	34.5%
	佐 賀	103	104	109	316	105	6.3%
	福 岡	408	390	348	1,146	382	22.9%
	熊 本	91	63	96	250	83	5.0%
	大 分	76	71	87	234	78	4.7%
九州 南部	宮 崎	66	81	78	225	75	4.5%
	鹿児島	43	53	52	148	49	3.0%
	沖 縄	29	33	31	93	31	1.9%
四 国		22	16	21	59	20	1.2%
中 国		82	88	87	257	86	5.1%
近 畿		62	79	71	212	71	4.2%
中 部		33	34	38	105	35	2.1%
関 東		47	44	55	146	49	2.9%
東 北		6	9	6	21	7	0.4%
北海道		13	13	14	40	13	0.8%
外国ほか ^ハ		7	6	8	21	7	0.4%
計		1,659	1,662	1,675	4,996	1,665	100.0%

(注記) 平均及び割合は小数点未満四捨五入のため、合計等が一致しない場合がある。

<資料出典> ※外部非公表

平成28年度～30年度 長崎大学都道府県別入学者（学生支援部入試課作成）

類似学部等における平成30年度一般入試（前期・後期）志願状況

大学名	学部名	学科名	入試区分	入学定員	志願者数	志願倍率	備考
長崎大学	工学部	工学科	前期	263	495	1.9	
			後期	50	373	7.5	
			計	313	868	2.8	
広島大学	情報科学部	情報科学科	前期	72	224	3.1	
			後期	6	53	8.8	
			計	78	277	3.6	
滋賀大学	データサイエンス学部	データサイエンス学科	前期	50	156	3.1	
			後期	20	140	7.0	
			計	70	296	4.2	
名古屋大学	情報学部	人間情報科学科	前期	30	113	3.8	後期試験は実施していない
		人間・社会情報学科	前期	30	111	3.7	
		コンピュータ科学科	前期	53	166	3.1	
			計	113	390	3.5	
長崎県立大学	情報システム学部	情報システム学科	前期	20	76	3.8	情報セキュリティ学科は教育内容が異なるため比較対象としない
			後期	8	146	18.3	
			計	28	222	7.9	

＜資料出典＞

平成30年度 広島大学個別学力検査入学志願者状況
 平成30年度 滋賀大学入学選抜資料
 平成30年度 名古屋大学一般入試(前期日程・後期日程) 出願状況
 平成30年度 長崎県立大学一般入試志願状況
 平成30年度 長崎大学一般入試志願状況

長崎大学
「情報データ科学部 情報データ科学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

平成31年1月
株式会社 進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2020年4月開設予定の長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

高校生対象調査		
調査対象		高校2年生(理系クラス優先)
調査エリア		福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	4,182人(31校)
	有効回収数 (回収校数)	3,281人(28校) 有効回収率:78.5%
調査時期		2018年11月12日(月)～2018年11月30日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
・性別 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・興味のある学問系統 ・長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」の特色に対する魅力度 ・長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」への受験意向 ・長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」への入学意向 ・長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」入学後の希望コース ・大学院進学・医学部編入学へのニーズ

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、長崎大学の「情報データ科学部 情報データ科学科」に対する需要を確認するための調査として設計。長崎大学の主な学生募集エリアである福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県に所在する高校の高校2年生に調査を実施し、3,281人から回答を得た。

- 回答者の性別は「男性」が57.8%、「女性」が41.8%である。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が89.9%、「私立」が10.1%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、長崎大学の所在地である「長崎県」が48.6%を占め、最も多い。次に「福岡県」が24.9%と続く。
- 理系クラス所属者に優先して調査実施を依頼したため、回答者の所属クラスは「理系クラス(理系コース)」が83.8%を占める。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国公立大学に進学」が92.3%で最も高い。次いで「私立大学に進学」が20.1%。
国公立大学への進学志望者が9割を占めることから、長崎大学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、「工学」が37.1%で最も高い。次いで、長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」の学びと関連する「情報工学・情報科学・データサイエンス」が22.9%、さらに、「医・歯・薬学」が22.5%と続く。

高校生対象 調査結果まとめ

長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」の特色に対する魅力度

- 長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目において7割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「A. これからの社会において、ビジネス・観光・医療やロボット開発・システム開発をはじめとする様々な分野に、情報・データ科学分野の知識・能力が必要になるといわれています。これらの知識・能力を修得し、社会において活躍できる人財を養成します。」(84.2%)であり、「とても魅力を感じる」と回答した人の割合も27.6%で最も高い。

次に魅力度が高いのは、「E. 「インフォメーションサイエンスコース」では、情報科学の高度な専門知識、IT能力を必要とする企業・自治体で活躍できる人財を養成します。」(77.7%)、さらに「C. 1年次で数学、情報科学やデータ科学の基礎を学び、2年次からAI、IoT(インターネット・オブ・シングス)、IT、情報セキュリティ、ビッグデータの処理や分析などの専門科目を、描いた将来に合わせて選択し、学ぶことができます。」(76.5%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」への受験意向・入学意向・希望コース

- 長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」を「受験したいと思う」と答えた人は、19.6% (643人)である。
- 長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」を「受験したいと思う」と答えた643人のうち、長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」に「入学したいと思う」と回答した人は、92.1% (592人)である。
- 「情報データ科学部 情報データ科学科」に対して「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と答えた592人のうち、「データサイエンスコースで学びたい」と回答した人は46.3% (274人)、「インフォメーションサイエンスコースで学びたい」と回答した人は48.1% (285人)と、ほぼ同程度の割合。

高校生対象 調査結果まとめ

長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」への 入学意向者数

※ここからは、長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答し、さらにQ6で「データサイエンスコースで学びたい」または「インフォメーションサイエンスコースで学びたい」と回答した人を【**入学意向者**】と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は、「受験したい&入学したい&データサイエンスコース希望」が8.4% (**274人**)、「受験したい&入学したい&インフォメーションサイエンスコース希望」が8.7% (**285人**)で、合計17.0% (**559人**)。予定されている入学定員110人を5倍以上上回っている。

◇性別

- 「男性」の入学意向は22.3% (1,895人中、**423人**)、「女性」の入学意向は9.8% (1,372人中、**135人**)と、男性の方が入学意向は高い。(ただし、男女ともに予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられる。)

◇高校所在地別

- 長崎大学の所在地である「長崎県」の高校在籍者からの入学意向は18.9% (1,596人中、**301人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。
- また、「福岡県」の高校在籍者からの入学意向も17.4% (818人中、**142人**)、「熊本県」の高校在籍者からの入学意向も17.4% (121人中、**21人**)みられた。

◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」在籍者からの入学意向は18.4% (2,750人中、**505人**)と、予定している入学定員数を4倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- 長崎大学を受験・入学する可能性が高い「国公立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は17.9% (3,027人中、**542人**)と、予定している入学定員数を4倍以上上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

◇興味のある学問系統別

- 長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」の学問内容と関連する「情報工学・情報科学・データサイエンス」に興味がある回答者の入学意向は、「受験したい&入学したい&データサイエンスコース希望」が20.0% (150人)、「受験したい&入学したい&インフォメーションサイエンスコース希望」が28.8% (216人)で、合計48.8% (750人中、366人)と、他の学問系統関心層と比べて高く、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。
- その他、「工学」に興味がある回答者の入学意向は26.9% (1,217人中、327人)、「理学」に興味がある回答者の入学意向は20.4% (612人中、125人)と比較的高く、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。
- 「社会学・マスコミ学」に興味がある回答者の入学意向は19.9% (146人中、29人)、「観光学」に興味がある回答者の入学意向は25.0% (156人中、39人)、「心理学」に興味がある回答者の入学意向は14.1% (396人中、56人)、「経済・経営・商学」に興味がある回答者の入学意向は17.4% (379人中、66人)で、文系の学問関心者からも一定の入学意向がみられた。

◇希望進路別×興味のある学問系統別

- 長崎大学「情報データ科学部 情報データ科学科」に入学する可能性がより高いと考えられる、「国公立大学に進学」を希望しており、かつ「情報工学・情報科学・データサイエンス」に興味がある回答者の入学意向は、「受験したい&入学したい&データサイエンスコース希望」が20.5% (147人)、「受験したい&入学したい&インフォメーションサイエンスコース希望」が29.4% (211人)で、合計49.9% (717人中、358人)。
ターゲットの条件をより精緻に限定した場合でも、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

大学院進学・医学部編入学へのニーズ

- 大学院進学・医学部編入学へのニーズとしては、「更に専門性を高めるため、情報系または工学系の大学院に進学」が27.6%、「医療分野応用に可能性を感じるので、医学部に編入学(長崎大学医学部への編入の場合、編入試験に合格すれば、医学部2年生として編入学できる)」が19.0%、「社会観光系応用の視野を広げるため、経済系、社会学系の大学院に進学」が11.1%の順。
- ただし、「現時点では卒業後に大学院や他学部に進学・編入学するつもりはない」が40.9%で最も多い。